

## 修士論文要旨

学籍番号：1215101

氏名：入福 恵

建設コンサルタントの仕事は、建設事業に伴う調査、計画、設計等であり、社会資本整備という公共事業の根幹を担っている。社会資本は国民の生命財産を守るものであり、建設コンサルタントに求められる技術の要求水準は常に上昇している。また、2007年問題といわれた団塊世代の定年や、急激な少子高齢化の進行、国の財政悪化に伴う公共事業削減など、建設コンサルタントを取り巻く状況は厳しいといわざるを得ない。しかし、このような現状においても、建設コンサルタントが有する技術は今後も引き続き社会的要請を受けるものであり、確実な技術継承が求められている。一方で、建設コンサルタントの有する技術は個別性が高く、必ずしもすべてが形式化するものではない。特に、建設コンサルタントのようなサービス業においては、人材は唯一の経営資源といっても過言ではない。そのため、人材育成、とりわけ技術継承については、企業の継続的発展において、避けて通ることのできない重要課題である。

そこで、本稿では、建設コンサルタントにおける技術継承に焦点を絞り、その中でも実践コミュニティによる暗黙知の継承の重要性について述べていく。

これまで、建設コンサルタント業界においては、技術継承への取組みとして、様々なナレッジマネジメントの構築を試みてきた。しかし、それぞれの文化や歴史、人々の価値観に支えられ、地域で一品生産せざるを得ないような個別性の高い建設コンサルタントの技術の継承には、これまでのデータベース化やマニュアル作成では対応しきれていないのが現状である。

本稿では、建設コンサルタント業界の現状について分析し、技術力評価に偏重した入札制度により属人化が促進されることや、技術継承については形式知を主体としたナレッジマネジメントシステムに対する依存度が高いため、暗黙知については体系化された技術継承システムがほぼ不在であり、その結果、技術者の成長の2極化を引き起こすという構造的な問題があることを明らかにした。

また、建設コンサルタントにおける実践コミュニティの必要性を明確にすることを目的に、建設コンサルタントと同様に、業務の個別性・専門性が高く属人化しやすい業種（芸舞妓、看護師、落語家）を対象に、技術継承システムについて検証した。

さらに、事例検証から、実践コミュニティの有効性だけでなく、暗黙知の継承システムのあり方についても重要な示唆を得た。

そのうえで、実践コミュニティ形成の阻害要因の抽出と対策の方向性について検討を行い、建設コンサルタントにおける実践コミュニティのモデルを提示し、建設コンサルタントにおける実践コミュニティの必要性を明らかにした。